2026年度　上期業績

Better Health, Brighter Future

タケダの新たな時代の幕開け

成長ロードマップ― ２つの成長段階（Horizon）

HORIZON 1
成長に向けた変革

- ３つの新薬上市
- 強固な後期開発パイプラインを推進
- 既存主力製品の収益基盤としての安定性を確保
- トランスフォーメーション・プログラムを推進

HORIZON 2
成長の加速

- 上市製品群の規模拡大によって売上収益を最大化
- 後期開発パイプラインから次の新製品群を上市
- 新たな治療薬候補を継続的に創出
- 先進技術により効率性を向上

成長の加速が期待される3つの医薬品

ORZEYFUL™
ニューロサイエンス（神経精神疾患）

ナルコレプシータイプ1治療薬

✓ 上市済み（日本、中国）：2026年10月
米国での上市予定：2026年11月

MIMRYLO™
オンコロジー

真性多血症治療薬

✓ 上市済み（米国）：2026年8月

ザソシチニブ
消化器系・炎症性疾患

乾癬治療薬候補

米国でのPDUFA*に基づく審査終了予定：
2026年度第4四半期

さらに6つの後期開発品をはじめ、後期開発パイプラインは進展

メザギタマブ	elritercept	fazirsiran	TAK-928	arcotatug tavatecan	TAK-881
IgA 腎症 / 免疫性血小板減少症	貧血を伴う骨髄異形成症候群（1次/2次治療） 骨髄線維症	α-1アンチトリプシン欠乏症肝疾患	免疫療法及び化学療法後に増悪した扁平上皮及び非扁平上皮非小細胞肺癌（2次治療）	胃がん（3次治療以降）	原発性免疫不全症

*PDUFA：処方薬ユーザーフィー法（Prescription Drug User Fee Act）

3つの新薬と後期開発パイプラインにおいて着実に進展

未来への投資を支える、既存主力製品および新製品

既存主力製品
+0.5%（CERベース）

上市後6年以上経過し、年間売上高が1,000億円超であり、積極的に情報活動が行われている特定の製品

新製品
+17.3%（CERベース）

過去5年以内に上市された特定の製品および近い将来に上市予定の製品

TAKEDA CAPITAL MARKETS DAYを開催予定

2026年12月11日（金） 8:30 – 15:00 （日本時間）武田薬品工業 グローバル本社

今後の成長加速に向けた長期的な構想と戦略について紹介

> ORZEYFULとMIMRYLOの上市、ザソシチニブの優先審査指定および直接比較第3相臨床試験における良好な結果は、2つの成長段階（Horizon）からなる当社の成長戦略における大きな前進を示すものです。
>
> ― ジュリー・キム代表取締役社長 CEO

業績

2026年度上期業績 (2026年4 - 9月)

Core 売上収益	2兆4,070億円
Core 営業利益	7,106億円
Core EPS	308円

2026年度通期見通し

2026年度業績予想

Core 売上収益	4兆7,000億円
Core 営業利益	1兆1,900億円
Core EPS	482円

2026年度マネジメントガイダンス

Core 売上収益	一桁台前半%の減少
Core 営業利益	一桁台半ば%の減少
Core EPS	10%台前半の減少

本プレゼンテーションには、当社の将来の事業、将来のポジションおよび業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。重要な注意文言を含む、当社の将来に関する見通し情報に関する詳細については、当社の2026年度上期業績の投資家向けプレゼンテーション（https://www.takeda.com/jp/investors/financial-results/quarterly-results/）をご参照ください。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。

CER（Constant Exchange Rate：恒常為替レート）ベースの増減は、当期の国際会計基準（IFRS）に準拠した業績またはCore財務指標（Non-IFRS）について、前年同期に適用した為替レートを用いて換算することにより、前年同期との比較において為替影響を控除するものです。ただし、超インフレが発生し、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」が適用されている子会社の業績を除きます。

Core売上収益、Core営業利益、Core当期利益（親会社の所有者帰属分）、Core EPS、CER（Constant Exchange Rate：恒常為替レート）ベースの増減、純有利子負債、調整後純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリー・キャッシュ・フロー、調整後フリー・キャッシュ・フローは、IFRSに準拠しない財務指標です。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、当社の2026年度上期決算の投資家向けプレゼンテーション（https://www.takeda.com/jp/investors/financialresults/quarterly-results/）の末尾にある財務補足情報を参照の上、その定義と、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との調整表をご参照くださいますようお願い申し上げます。